

令和7年度 高鍋町立高鍋東小学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）4段階評価 【 A…よい B…概ねよい C…あまりよくない D…よくない 】

教育目標	高い志をもち、自らを律し、力強く生きる児童を育成する。
目指す学校像	○ 子供たちが「学校に行きたい」「学校が楽しい」と思える学校
目指す児童像	○ 主体的に学び、協働し考え深める子ども（かしこく）○ 礼儀正しく思いやりのある子ども（やさしく） ○ ねばり強く元気な子ども（たくましく）
本年度の重点（教育的課題）	特別支援教育を基盤とした学校教育の推進 1 学力向上の推進「学び合い」 2 心の教育推進「ふれあい」 3 健康づくり推進「高め合い」

評価項目	方策・手立て	評価指標	自己評価		結果の考察・分析	改善策等	学校運営協議会委員評価		
			指標別	総合			コメント	評価	
たかなべ学校エンパワー事業	子ども一人一人を伸ばすための職員間の協力体制づくりと分かる授業づくりの実践	○ 互いの得意分野を活用した交換授業や相互授業参観を通して授業改善に努める。	○ 同学年の職員でチーム担任制をテーマに協力体制について熟議し、実態に応じた実践を行う。	B	B	○ 内容の定着の仕方などを学年部で考えることで、よりよい授業づくりに取り組むことができた。ICTの活用について定期的に研修を行い、指導技術を高める機会をもつことができた。 ○ ケース会議を積極的に設け、よりよい支援の在り方を検討し、実践につなげている。 ○ 地域と連携した学習についてのアンケートについて肯定的意見80%以上であった。 ○ 学校運営協議会にて「連携・協働」をテーマにした研修を設けたことで、地域と学校がともに向かうべき方向性を確認できた。 ○ 本年度も幼保小連絡会を実施し、次年度入学予定の児童について情報収集を図ることができた。 ○ スクールカウンセラーの来校回数が増えたこと、保護者への周知を図ったことで利用者が昨年度より増えた。また、情報交換や協議を通して、支援を必要とする児童や保護者に対して支援の充実を図ることができた。	○ 本年度途中より児童用タブレットが刷新されたため、今後更にICTの効果的な活用法について研修を深める。 ○ 児童の諸問題については組織的に対応できるようにケース会議を更に積極的に行っていく。 ○ 地域資源を更に開発し、地域の力を生かした学習に取り組んでいく。 ○ 幼保小の連携を更に密にし、「切れ目のない子育て支援」を今後も継続する。 ○ 次年度もスクールソーシャルワーカー及びスクールカウンセラー等との連携した取組を行っていく。	・デジタルの大切さも分かるがアナログの良さも伝えてほしい。 ・先生方の努力を高く評価する。	A
		○ ICTの効果的な活用方法をテーマにした職員研修を設定し、職員のスキルアップに努める。	○ タブレット及びデジタル教科書の活用方法を協議し、教育効果を高めるICT活用の向上に努める。	A					
	子ども一人一人に寄り添い、子どもの自己肯定感を高めるためのスクールワイドPBSの実践	○ 子どもたちのよい行いを情報収集し、賞賛の場を積極的に設定する。	○ 週1回設定した賞賛の時間を確実に実践している。	B	B				
		○ 児童の実態を的確に把握し、個に応じた指導を行う。	○ 特別な教育的支援を必要とする児童には個別の指導計画を作成し、指導している。	A					
学校、家庭、地域の連携の充実と実践	○ 地域コーディネーターと連携し、地域素材を積極的に活用した教育活動を展開する。	○ 地域や保護者と連携した教育の充実に努め、80%以上の保護者が地域連携の充実を実感している。	A	A					
	○ 学校運営協議会に熟議の場を設け、コミュニティ・スクールの活性化を図る。	○ 熟議の場を設け、多様な意見を学校運営の参考にしている。	A						
「切れ目のない子育て支援」の充実と実践	○ 幼保との連携を密にし、実態把握と指導の充実に努める。	○ 幼保小連絡会を実施し、就学前の児童の把握に努めている。	B	B					
	○ 子育ての支援を必要とする家庭に対して、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携し、支援の充実を図る。	○ 福祉課・健康保健課やスクールソーシャルワーカー、関係機関との情報交換や協議を行い、よりよい支援を行っている。	B						
知育	【学力の向上と定着】 ・学習規律・学習基盤の確立 ・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 ・主体的な学習態度の育成及び思考力・表現力の育成	○ 基本的な学習習慣の定着を図る。 ○ 学習する意欲をもたせ、言語活動を通して思考力等を育成する。 ○ ICTを効果的に活用し、学習内容の定着を図る。 ○ 家庭学習の習慣化を図る。 ○ 読書を推進し、昨年度の読書冊数を上回る。	○ 一人一人の子どもに応じて分かりやすい授業を行っている。 ○ 子どもたちは授業中、進んで学習に取り組んでいる。 ○ 学習内容の定着のために、ICTを効果的に活用している。 ○ 家庭学習の習慣が身に付いている。 ○ 子どもたちは進んで読書し、本に親しんでいる。	B	B	○ ひなたの学びを意識した授業づくりについて、研究を深め、共通理解・実践ができた。 ○ 児童へのアンケート結果において、わかりやすい授業について肯定的回答が90%以上となった。全国学力調査においても平均よりよい結果となった。 ○ ボランティアの方や学校司書による「読み聞かせ」も計画的に実施することができ、本に親しませることができた。	○ 次年度は、職員の協力体制について更に具体的に掘り下げ、実態にあった研究を計画していく。 ○ 次年度以降も、タブレットの持ち帰りを恒常的に行い、個々の課題に応じた学習に取り組ませる。また、家庭読書（家読）の啓発を行う。	・読書の習慣を小学校のうちから付けさせるのが望ましい。 ・学習習慣をしっかりと確立してほしい。	B
徳育	【命を大切に作る豊かな心の育成】 ・基本的な生活習慣の定着 ・望ましい人間関係を築こうとする心の教育 ・落ち着いて行動できる児童の育成	○ すべての児童が元気にあいさつや返事が進んでできるようにする。 ○ 規律意識、よりよい人間関係の醸成を図る。 ○ 仁義礼知を意識した道徳教育の充実と実体化を図り、思いやりの心、人権意識を育む。 ○ 保護者・地域との連携を通して、地域を大切に作る心を育む。	○ 学校は、いじめや差別のない温かい人間関係づくりに努めている。 ○ 子どもたちは楽しく学校に通っている。 ○ 子どもたちは、笑顔で明るいあいさつや返事ができている。 ○ 子どもたちは基本的な生活習慣が身に付いている。	B	B	○ あいさつができた児童を賞賛することを繰り返すことで、あいさつをする児童が増えてきている。 ○ 人へやさしく接することができる児童についてのアンケートにおいて、肯定的意見90%を超える結果となった。	○ 次年度も賞賛の場を積極的に設け、あいさつができる児童の育成を図っていく。 ○ あいさつ週間など保護者・地域との連携を意識した取組を展開していく。	・あいさつの習慣をしっかりとつけさせてほしい。 ・人に優しくする大切さを知ってほしい。	A
体育	【たくましい心と体づくり】 ・健康的な生活の習慣化 ・運動に親しむ心と、健康でたくましい体の育成（体力向上） ・生涯にわたって楽しく明るい生活を営むための基盤づくり（食育、弁当の日）	○ 外部と連携した防災教育の充実を図る。 ○ 体力テストの結果を踏まえたスクールスポーツプランを計画し、体力を向上させる。 ○ メディアコントロールに積極的に取り組み、生活リズムを向上させる。 ○ 外遊びを奨励し運動の日常化を図る。 ○ 弁当の日を実施する。	○ 学校は、健康でたくましい子どもを育てるために体力向上に努めている。 ○ 給食指導や食に関する指導の充実に取り組んでいる。 ○ 安全な登下校や危険から身を守る態度の育成に努めている。 ○ 子どもたちは生活リズムが身に付いている。	B	B	○ 自分自身の生活習慣を確認するため「メディアコントロール週間」を実施することで、基本的な生活リズムを整えるきっかけとなっている。	○ 健康的な生活習慣について、保護者への啓発を更に強め、学校と家庭が協力して取り組めるようにする。 ○ 家庭でのスポーツ（家スポ）の啓発を行う。	・健康的な生活習慣を身に付けてほしい。 ・運動の大切さや楽しさを知ってほしい。	B

【次年度の方針についての校長所見】 ICT教育が進む中、その利便性と脆弱性を把握し、きちんと子供たちにも伝えながら、有益に活用する力を育む必要がある。そのために、教職員向けの研修を充実させ、職員の資質向上を図ってきたい。また、日常より望ましい学習習慣を身に付けさせるとともに、家庭学習についても本校の「家庭学習の手引き」を更に周知し、定着を図りたい。あいさつの習慣や思いやりの心を育む教育、健康的な生活習慣についてもこれまで通り継続して取り組みたい。本校の取組を常に確認できるような手立てを考えていきたい。